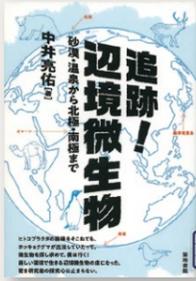


図書館だより 今月のおすすめ本



女性のための「起業の教科書」
豊増 さくら
 「好きなことや得意なことをビジネスにしたい!」「でも、何から始めればいいのか分からない」という人に、各分野の専門家や起業家がアドバイスやエールを送ってくれる一冊。事業プランから資金、開業準備、運営までを分かりやすく解説しています。(西)



追跡! 辺境微生物
中井 亮佑
 厳しい環境に生きる「辺境微生物」に魅せられた著者が、砂漠や温泉、北極・南極に出向き微生物の生態に迫ります。微生物を追ってヒトコブラクダに乗ったり、ライフル抱えて氷河を登ったり、現場での調査の様子や体験も盛り込まれ、雰囲気伝わってきます。(東)

▶詳しくは、東図書館 ☎62・0190、西図書館 ☎75・5406) へ。

まいづる花図鑑

vol 148



クロッカス (ハナサフラン) (アヤメ科)

ヨーロッパから西アジア原産の多年草。早春に、球根から葉鞘に包まれた短い花茎と松葉状の葉を出し、ろう斗状の大きな6弁花を開く。花は日が当たると開き、曇りや夕方には閉じる。原種は世界に75種ほど。園芸種も多く、花の色も黄・紫・白・紅など多彩。名前の由来は、属名のCrocusから。別名ハナサフラン。同族のサフランは秋に咲き、古くから花柱(雄しべの頭と子房との間の柱の部分)を乾燥させ、鎮痛剤などの薬、食品や化粧品染料・香料として使われる。

【協力】 瓜生勝朗/市文化財保護委員 (植物分野)

もっともアツい中国情報

国際交流員 朴 蓮姫

知れば知るほど面白い中国の春節

4千年の歴史がある春節(旧正月)は中国で最も大切な祝日。日本でのお正月のような存在です。今回は春節の由来や飾り、習慣を簡単に紹介します。

春節の由来は諸説あり、主には年越しと新年の豊作祈願から始まったといわれています。

また、春節は次の年を良い年にするためたくさんの習慣があります。まず年越し用品を買います。食べ物以外にめでたい気分を表す飾りも欠かせません。色は中国でめでたい色とされる紅がメインです。新年を祝い、邪気を払う言葉や絵を窓や玄関に貼り、きれいな植物で部屋を飾ります。新年は家族が集まり、お互いに新年のあいさつのほか、お年玉を送るのが常識。ほかにも都市によって獅子舞や龍舞、爆竹、灯会などのイベントも行われます。中国の暦でも十二支が使われていますが、日本の干支と一つだけ違うところがあり、2019年は中国では猪の年となります。

《みなと振興・国際交流課》



くらしの豆知識

悪質な通販サイトに注意

最近、世間を騒がせている偽サイトなどの悪質サイト。中にはこんな事例が…。

【事例①】中学生の子どもがスポーツ用品をネット検索し通販サイトで注文。料金を支払ったが商品が届かない。

【事例②】SNSの広告から見たサイトで「定価8万円の革のバッグが今なら約8千円」とあったので注文して代引きで支払ったが、ビニール製のバッグが入っていた。

通販サイトで見られる「代金を支払ったのに商品が届かない」「注文した商品と異なるものや偽物が届いた」などのトラブルは悪質なサイトの可能性が高く「正規の値段より極端に安価」「サイトに正確な運営情報(運営者氏名、住所、電話番号)が未記載」「日本語の表現が不自然」「支払い方法が銀行振り込みのみ」などの場合は要注意です。

楽しいはずのネットショッピングで悪質な通販サイトにだまされないために、上記のような知識を持って、注意しましょう。

また、困ったときは一人で悩まず、消費生活センター(市民課内、☎66・1006)へご相談ください。《同センター》

子ども版

「広報まいづる」

舞鶴っ子

まいづる No.14

まいづる大好き!



▲プレイベントでのサーチライトとレーザー光線の「光の乱舞」ショー(平成7年8月18日~20日)



▶竣工式のテープカットの様子(平成7年8月21日)

五老ヶ岳公園 五老スカイタワー



平成最後の元旦は良いお天気じゃったのお。五老岳からも、きれいな初日の出が見れたよっじゃな。今回は、五老ヶ岳公園にある五老スカイタワーの話をしよっかの。五老岳は知ってのとおり東西舞鶴の中央部にある標高約301mの山じゃ。戦時中は海軍の用地として空襲を察知するための探照灯(※)が置かれていたが、終戦後は放置されとった。それを、昭和34(1959)年に市が公園として整備したんじゃ。

当時から有名じゃった「五老岳がらの舞鶴湾」は、昭和60年に郵政省近畿郵政局が「近畿百景」として近畿の美しい景色を公募した中で、なんと約5万7千票を獲得し第1位に。ちなみに第2位は、兵庫県豊岡市出石の辰鼓楼(時計台)で約1万票の差をつけてのぶっつちぎりの1位じゃ。

スカイタワーがなかった時は、今の位置よりも少し東のデッキから市内を見下ろせたが、東のまちしか見えんかった。リアス式海岸の美しい港や緑の木々、舞鶴の町並みを360度のパノラマで見てほしいという思いから、市政50周年事業の一つとして、展望広場と駐車場の整備、五老スカイタワーの建設が決まったんじゃ。舞鶴市は当時から「世界に開かれた海洋・文化都市・舞鶴」を目指したまちづくりを進めておったから、港町・舞鶴をアピールするシンボルタワーとして、また、この絶景を見ながら市民が憩える場所をつくるためでもあったそうじゃ。平成6年に着工され、平成7年8月に完成したんじゃ。

タワーは鉄骨4階建て、高さは地上50mでビルの7階に相当するぞ。展望室の高さは地上28.2m(海抜325.2m)じゃ。どのくらい高さがあれば市内全体が見渡せるかと、クレーンを使って景色を確認したそうじゃ。当時、高さ50mは日本一低いタワーじゃったが、五老岳の高さを足すと325.2mになって、東京タワーの展望台268mより高かったんじゃ。「低くて高い」展望室ということに話題にもなったんじゃ。広場の模様は波を表して展望室は船の艦橋、波を切って進む船をイメージした。

展望台だけでなく公園の敷地は約1万4千平方メートルあって、こども広場やもみじ広場、松の広場、ナホトカ広場もあるから、暖かくなってきたらゆっくり散策するのも楽しいぞ。今では、すっかり舞鶴のシンボルとして市民に定着したわい。



▲舞鶴湾を一望できる、波と船をイメージ

※探照灯: レーダー技術がない時代に、上空や海上の敵の戦闘機や艦船を探するために使用された。今でいう「サーチライト」のこと。

